

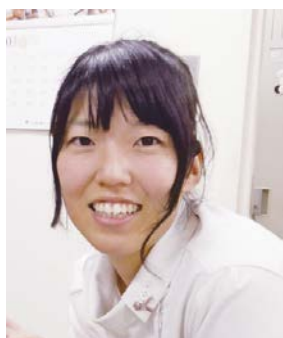
【会員だより】

技師一年生からの投稿

お詫び

「技師一年生からの投稿」は、平成 26 年 1 月発行の「学友だより 210 号」に掲載する予定で、昨年 11 月に原稿を頂戴しました。しかし、紙面の都合で 210 号に掲載できませんでした。原稿をお預かりしてから半年が経過しており、文面には今とそぐわない点があります。これは全て編集委員長の不手際の責任であることを明記し、ここに執筆いただいた皆様およびご高覧いただく学友の皆様にお詫びいたします。

医療人一年目



社会医療法人厚生会 木沢記念病院 下村 望(大学 3 回生)

私は本学卒業後、岐阜県の木沢記念病院に勤務しています。入職してからは一般撮影をメインに、マンモグラフィやポータブル撮影、TV、手術室での透視、骨密度測定、CT と、様々なモダリティを習得するために目まぐるしい日々が続いていました。はじめは患者さんへの接遇やポジショニングに戸惑い、悩みが絶えませんでした。適切なポジショニングを行うためには患者さんの協力が不可欠で、患者さん一人ひとりにあった接遇を行わなければなりません。接遇や撮影を丁寧に行うあまりに時間をかけすぎてしまってもいけません。救急の場合ではマニュアル通りの撮影を行えないことが多く、患者さんの状態に合わせた適切な撮影を行うにはどうすれば良いのかと、

頭を抱えることも少なくありませんでしたが、そんな様々な悩みを共感し相談し合える同期や、話を聞いてアドバイスをしてくださる先輩方に支えられて毎日を過ごしています。

大学時代は仲の良い友達と笑い合い、試験前になると焦って一緒に猛勉強したことを思い出します。特に国家試験前、学内模試の成績も思わしくなく、先生方に心配をかけるような点数を採ったこともありました。それでも毎日、登校して勉強していました。時には一緒に愚痴を言い合ったり、疑問点などを話合ったりして支え合った仲間や、いつも大変なときに励まして下さった本学の先輩方、頑張れと応援してくれた後輩達は今でもかけがえのない存在です。またいつも親身になって指導して頂いた先生方に深く感謝しています。地元の兵庫県や大学時代を過ごした京都府など、慣れ親しんだ近畿を離れることは、自分で決めたこととは言え寂しく辛い時もありますが、仲間たちも各々の場所で頑張っていると思うと負けてはいられないと前向きになれる。

10 月からは残務や当直業務が始まり、他職種とのつながりや、チーム医療の一員であることを改めて強く感じています。また 11 月からは新しく超音波検査の習得に励んでいます。まだまだ勉強の日々ですが、今の自分の現状に満足することなく、自分自身のスキルの向上と共に、患者さんを思いやり病院の力となる放射線技師になれるよう、初心を忘れることなく努力をしていきたいと思えます。

京都医療科学大学を卒業して



愛媛大学医学部附属病院 谷地 政紀(大学 3 回生)

私は平成 25 年の 4 月より愛媛大学医学部附属病院に勤務しています。出身は北海道ですが、大学病院で学ぶことができるということで、地元とは離れた土地で働くことを決意しました。仕事が始まり、まず、学生生活との生活スタイルの違いに悩まされました。学生時代では「明日は講義が遅いから今夜は飲みに行っても、夜更かししても大丈夫」という考えでしたが、就業してからは、仕事が終わるとまっすぐ家に帰ってご飯を作り、周りに迷惑をかけないようにその日の検査の復習と、次の日の検査の準備をして早めに寝る、という生活が基本になりました。最初の 1 か月間は夢の中にも仕事が出てきて、まるで一日も休まずに仕事をしているという感覚に襲われました。さらに、近くに友達もいなかったため、仕

事に対するストレスが溜まって、それを発散させることができませんでした。そんな時、私の力になってくれたのは大学時代の友人でした。やはり、同じ就業環境にある友人は似たような悩みを持っており、ほぼ毎日連絡を取り合っては、仕事の話や他愛もない話を延々としていました。大学時代に得た友は本当にかげがえのないものだと思感したと共に、これからも大切にしていこうと思いました。

仕事の内容は4月～9月までは一般撮影を中心として業務を行い、10月から1ヶ月間CTに入りました。座学である国家試験を通ったくらいではまったく知識が足りず、何より患者接遇をどのようにすべきか、正解が判りません。しかし、職場の先輩方に助けていただきながら徐々に仕事にも慣れることができ、なんとか勤めることができています。

就職してから約半年が経ちましたが、まだまだ覚えることが多い勉強の日々です。一日も早く尊敬できる職場の先輩方のように、今度は逆に頼りにされるような存在になれるよう、これからも努力し続けていきたいと思っています。

診療放射線技師になって



済生会滋賀県病院 弥永 彩有(大学3回生)

現在、私は済生会滋賀県病院に勤務しています。当院は、第3次救急医療を担う救命救急センターであり、災害拠点病院でもあります。10月までに一般撮影、CT、MRI、透視検査、血管造影検査など一通りのモダリティを担当し、当直業務にも入るようになりました。

国家試験が終わり気が抜けていましたが、仕事が始まると再び勉強の日々が始まりました。一般撮影、CT、MRI、胃透視など、国家試験の内容だけでは補えないものが多くできます。今はまだ知識も足りなく職場の先輩方に助けられるばかりです。先輩方を見てみると、医師の求めていることを素早く判断し行動され、なるべく患者さんの負担にならないように検査をされています。ポータブル撮影や救急など、通常の状態ではない患者さんでは特に工夫が必要とされますが、私はまだ臨機応変に動くことができません。日々勉強、精進し先輩方のように早くなりたいと思っています。

学生時代の思い出は、休憩室で友人と勉強したことが一番強く心に残っています。授業のない日や模試の前、朝早くから大学が閉まるまでひたすら勉強しました。今年も寒くなるに連れてその日々を思い出します。判らないことがあれば互いに教えあい、質問に行き、励ましあって勉強しました。時には一緒に映画や食事にと、息抜きもしました。国家試験の勉強はきついものでしたが、友人、先生方や事務の方にも全面的にバックアップしていただいたからこそ乗り越えられたのだと思います。

就職して半年経ちましたが、まだまだ失敗や戸惑うことばかりです。うまくいかずに悩むことも多いですが、一緒に卒業した友人も同じ悩みを持っているので、お互いに励ましあっています。大学時代にできた友人は、卒業してからも支えあえる大切なものだと感じています。在学生の皆さんも友人と助け合い、頑張って国家試験を乗り越えてください。

診療放射線技師としての第一歩を踏み出して



三菱神戸病院 廣島 桜(大学3回生)

神戸市兵庫区にある「和田岬砲台」をご存知でしょうか？ 砲台は徳川幕府によって、江戸時代の末期に勝海舟の設計で、和田岬・川崎・西宮・今津の4ヶ所に建設されました。それから約150年経った今、当時の面影のまま残っているのは「和田岬砲台」のみとなり、三菱重工業株式会社 神戸造船所内でしか見られなくなりました。私は、平成25年4月より、縁あって三菱重工の社員として三菱神戸病院に勤務しています。

画像技術科は、診療放射線技師が10名(男性7名、女性3名)で、一般撮影、ポータブル、マンモグラフィ、CT、MRI、健診に携わっています。入社直後は、業務内容やポジショニングを覚えるのに必死で、患者さんとの意志疎通の難しさに苦労

しました。患者さんに説明して動いていただくためには、患者さんに合わせた言葉づかいなどの説明力が必要となり、自身の説明力や表現力のなさを痛感する日々でした。しかし、マンモグラフィのポジショニング練習のために、実働に先駆けて7月頃に病院職員から被検者ボランティアを募ったところ、院長をはじめ看護師や薬剤師、約60名もの方々に協力していただきました。そのお蔭で、撮影技術だけではなく、病院にもいち早く慣れることができました。そしてなによりも、コミュニケーションを取ることの大切さを学び、少しは自分自身の表現力も向上できたのではないかと考えています。

大学時代を思い返せば、当時私は、実家の神戸から約2時間半をかけて通学していました。しかし、長距離通学のおかげで、帰りの電車で笠井先生をはじめ、多くの先生方と一緒にすることがあり、勉強や就職などのアドバイスを個人的に話して下さる機会に恵まれ、とても充実した大学生活を送ることができました。

最後になりましたが、就職するにあたって西谷先生を初め、多くの先生や事務の方には大変お世話になりました。そして、素晴らしい学友会を築いてくださった先輩方にこの場をお借りして御礼申し上げます。診療放射線技師としての第一歩を踏み出したばかりの私は、知識不足や経験不足からまだまだ失敗の多い日々を過ごしています。しかし、これから巣立って来る後輩のため、歴史ある学友会を築いてくださった諸先輩方のため、そして目の前にいる患者さんのために、より良い医療を提供できる技師になれるように、日々精進していきます。

診療放射線技師になって



大阪医科大学附属病院 磯田 浩輝(大学3回生)

私が勤務している大阪医科大学附属病院は、病床数915床で高度医療施設として位置付けられており、特定機能病院にも指定されています。診療放射線技師は46名で、業務は一般撮影にCT、MRI、アンギオ、放射線治療、RIがあります。

昨年の今頃は、国家試験合格を目指し勉強の毎日でした。友達に教え、逆に教えてもらったりと、たまに息抜きを挟みながら勉強し、良い仲間のおかげで無事に卒業し、国家試験に合格することができました。しかし、仕事を始めて学生の時の知識だけでは通用せず、学生時代に先生方が言われていた「働いてからの方が勉強が必要」ということを痛感しています。

就職してから半年、私は現在一般撮影を担当しています。始めの頃は、撮影をすることに一杯一杯となり、うまく患者さんとコミュニケーションをとれずに失敗することもありました。しかし、終業後に残って練習したり、時には先輩にアドバイスを頂き、撮影に慣れてきたことで患者さんともコミュニケーションをとりながら撮影できるようになりました。10月からは当直業務に入るようになりました。当直業務で救急の患者さんの場合、マニュアル通りに撮影できることが少なく、臨機応変にその状況にあった撮影をしなくてはなりません。そんな状況でいかに工夫して先生の求める画像を撮影するか、その難しさを実感しています。そのため、毎日の業務の中で先輩方のポジショニングや、患者さんへの対応や説明の仕方などを見て学び、少しでも自分のものにしようと思っています。まだ担当したことのないモダリティがあり、装置の操作などまだまだ学ばなければならないことはたくさんありますが、仕事にも少しずつ慣れてきました。これからも初心を忘れずに日々勉強し、技術を磨いていきたいと思っています。

以上

*通巻211号 2014年4月10日発行(H26-No.1)より